

# 東京新聞 暮らすめと

東京新聞読者の生活情報紙

## お元気ですか

心臓 PART IV



南淵 明宏 40

まだ大騒ぎにはなっていないませんが、来年一月からマイナンバー制度がはじまります。国民一人ひとりに番号が付けられ、身分証明はもとより収入、支払い、年金、医療、そして資産まで、すべてを行政が監視できるようにする、というものです。預金などの資産に対する課税ももれなく実施されることになるでしょう。宗教法人への課税も当然の流れのほうですが…。権

力に住民すべてが監視される世界。こんなSF映画の世界がいよいよ現実になります。

国民の医療データがマイナンバーで一元的に管理されることで医療行為の重複が防止され、医療費削減が

## 医療現場の混乱は必至

### マイナンバー制度

期待できます。

しかしそういった検査の結果や画像が各病院で共有できないなら実際の医療には役立ちません。

「大病院で手術を受けろって言われたんですが逃

げてきました」

そんな患者さんがたくさん来ます。

「前の病院は信用できません。もう一度検査を全部やり直してください」

こんな場合、健康保険組合から「重複する検査は保

険適用ではできません！」

とダメ出しをくらい、八方ふさがりになるケースが頻

発することでしょう。医療現場での大混乱は必至です。

クレジットカードやスイカも連動するでしょうから、

我々がいつ何時にどこに移動したか、どんな買い物

したか、すべてバレバレです。

「いいじゃない。何も悪いことしてなければ」。全くその通りです。

政府は弱い者いじめばかりするのではなく、官製談合や贈収賄、選挙違反に違法献金、巨額脱税など、政治権力に巣食う巨悪根絶にマイナンバー制度を活用していただきたいものです。



プロフィール なぶち・あきひろ

奈良県立医科大学卒。シドニー・セント・ビンセント病院、国立シンガポール大学病院などを経て、2010年12月から品川区の大崎病院東京ハートセンターのセンター長。医学博士。